

チャノキイロアザミウマ情報 第2号

平成 21 年 6 月 2 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生の状況

JPP-NETを利用して有効積算温度から算出したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月12日から5月20日となりました(表1)。それに呼応するように、東浦町のブドウ園、蒲郡市および南知多町のカンキツ園に設置した黄色粘着トラップに、5月第4半旬(16~20日)以降誘殺が認められるようになりました。

また、防風用に栽植されているイヌマキの新梢に生息する本種を、5月下旬に払い落とし調査した結果、概ね平年並の発生量でした。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日 (JPP-NET)

	愛西	東海	南知多	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	稲武
第1世代	5/18	5/12	5/19	5/12	5/18	5/17	5/15	5/17	5/20	6/09
第2世代	6/14	6/09	6/17	6/09	6/15	6/14	6/13	6/14	6/17	7/09
第3世代	7/06	7/02	7/10	7/02	7/08	7/07	7/06	7/07	7/09	8/02

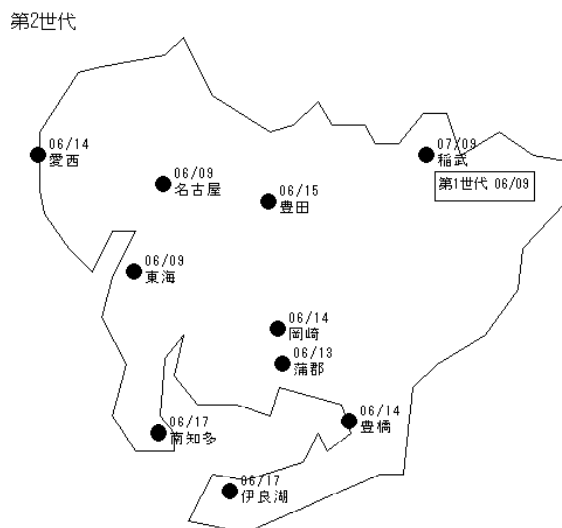
注 表中の地名はアメダス地点を示します。

各地の気温は5月31日までは実測値を、それ以降は平年値を入れて計算しています。

2 発生ピークの予測と防除

中山間地を除いた地域における第2世代成虫の発生ピーク予測日は、6月9日から6月17日となっています(表1、図1)。これは平年より5~10日早く、また昨年より1~2日早い地点が多いです(参考)。

成虫発生ピーク時が防除適期ですので、発生が多いほ場では表2を参考に防除しましょう。



参考 昨年の第2世代成虫発生ピーク日

愛西	6月15日	岡崎	6月15日
東海	6月11日	蒲郡	6月14日
南知多	6月17日	豊橋	6月14日
名古屋	6月11日	伊良湖	6月16日
豊田	6月17日	稲武(第1世代)	6月12日

図1 第2世代成虫の発生ピーク予測日

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤と使用基準

作物	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	総使用回数
カンキツ	オルトラン水和剤	1,000~1,500	30日	3回
	モスピラン水溶剤	2,000~4,000	14日	3回
	アドマイヤーフロアブル	2,000~5,000	14日	3回
	ハチハチフロアブル	1,000~2,000	前日	2回
ブドウ	オルトラン水和剤	1,500~2,000	30日(収穫の早い品種は使用時期に注意)	2回
	テルスター水和剤	1,000	14日	2回
	コテツフロアブル	2,000~4,000	14日	2回
	ダントツ水溶剤	2,000~4,000	前日	3回
カキ	オルトラン水和剤	1,000~1,500	45日	2回
	コテツフロアブル	2,000~4,000	14日	2回
	モスピラン水溶剤	2,000~4,000	7日	3回
	ダントツ水溶剤	2,000~4,000	7日	3回